

甲南大學紀要 第165号 目次

(文学編)

日本語日本文学科

小野不由美作品における分離の象徴化① 自分自身の王であるということ……………田 中 雅 史 3 ——「十二国記」シリーズ『月の影 影の海』——	
山上憶良と大伴旅人の作品を論じるための序説……………廣 川 晶 輝 (一)	
〈関係〉を表す形容詞の意味と用法 ——「近い」と「遠い」—— ……………八 亀 裕 美 11	
2013年度修士論文要旨 …………… (九)	

英語英米文学科

有村兼彬教授近影	
中島信夫教授近影	
有村兼彬先生のご退職によせて……………福 島 彰 利 25	
中島信夫先生のご退職によせて……………福 島 彰 利 27	
有村兼彬教授略歴および業績一覧 …………… 29	
中島信夫教授略歴および業績一覧 …………… 35	
「百年後なら」 ……………青山 義 孝 41 ——嘆きのインディアン その2——	
<i>The Great Gatsby</i> と貨幣 ……………秋 元 孝 文 49	
Where not to put why, and why not?……………Nigel Duffield 57	
ピクトリアリズムの展開……………中 島 俊 郎 69 ——『芸術写真研究』を軸として——	
コミュニケーションにおける意図について……………中 島 信 夫 87 ——Grice の非自然的意味 (non-natural meaning) に基づく考察——	
テ形複雑述語の多義性をどう捉えるべきか……………中 谷 健 太 郎 99 ——文法化アプローチと拡大的合成アプローチ——	
2音節複合語の母音の持続時間……………福 島 彰 利 113 ——予備実験——	
Hawaiian Nationalism, American Patriotism, and Re-franchising Women in Post-Annexation Hawai'i, 1912-1920 ……………安 武 留 美 119	

社会学科

ファッション系統の社会学	栗田宣義	129
1960年代、ノッティングヒルの「新しい」コミュニティ活動に 関する研究序説	西川麦子	141
——スチュアート・ホールからの問い——		
ライフスタイル運動における選択的誘因： スローフード運動における継続参加意欲の分析	星敦士・宮田尚子	159
2013年度修士論文要旨		183

人間科学科

障がい者の創作物はいかに評価されるか	服部正	187
——第55回ヴェネチア・ビエンナーレの出品作をめぐる一考察——		
「自分らしくあること」(本来感)と「それを目指すこと」 (本来感希求)がストレス反応に及ぼす影響	福井義一・成瀬友貴美	199
——規定因としての成人愛着の検討——		
アタッチメントと反社会性	平野慎太郎	211
——その理解と支援——		
2013年度修士論文要旨		227

歴史文化学科

救援ギルドとエルバーフェルト制度	高田実	241
——20世紀初頭イギリスにおける「新しいフィランソロピー」と地方の福祉——		
ラオス焼畑山村における家畜飼養拠点としての 出作り集落の形成	中辻享・ラムプーン サイウォンサー・竹田晋也	255
——ルアンパバーン県ウィエンカム郡サムトン村を事例として——		
史料翻刻 『本堅田村諸色留帳』(二) ——元禄一四年—— 東谷智・鎌谷かおる・栗生春実・郡山志保・ 高橋大樹・水本邦彦・山本晃子		(一五)